



「25%ルール」のすすめ

園の周りに、方々からヒヨドリが集結し始めました。なぜだと思いますか。それは、ヒヨドリたちがこれから冬を越すために九州の山に向かうためです。では、なぜ大勢集まるのでしょうか。実は、天敵のハヤブサから身を守るためです。九州に行くためには関門海峡を渡らなければいけません。海の上は隠れるところがないので、ハヤブサにすぐ見つかってしまいます。群れで海面すれすれに移動した方が襲われるリスクが少ないのです。船をよけるために急上昇もします。大群での命懸けの海峡横断は圧巻。地元で呼ばれている「竜の渡り」は彦島の秋の風物詩です。

野鳥は、季節の移り変わりを気温ではなく日の長さで知るそうです。今年の猛暑の9月でも、日は少しずつ短くなっていました。ヒヨドリたちはいつもの習性どおり彦島に来ています。

さて、今年は本園にもたくさんの先生たちが集まっています。その一つが「ティーチャーズ・トレーニング」。下関市こども発達センター（幡生本町）主催の研修会に、本園の指導教諭がみんなに呼び掛けたところ、全員が参加すると答えました。そして、姉妹園である第一幼稚園からも参加の申し出が、さらに他園の先生たちも加わり、30数名が本園に集うことになりました。



センターからは、講師の臨床心理士の先生を始め、メンターとして4名の職員の方が来てくださいます。研修は夕方6時過ぎから8時過ぎまでの2時間。家庭もあり、昼間の疲れも当然あるに違いありませんが、先生たちの研修意欲に頭が下がります。

先日は3回目の研修がありました。始めに前回課題として出された「25%ルール」などを、全員が1か月間現場で実践しまとめたレポートをもとに、講師の先生が解説をされました。

「25%ルール」というのは、子どもをほめるときの基準を25%程度まで下げましょうということだそうです。50%でないのがミソです。最初のハードルをできるだけ低くし、基準を細かくしてやると、ほめることがたくさん増えますよというわけです。例えばおもちゃの片付け。「1度言われただけで、すぐに、きれいに、片付けができる」を100%としたとき、それが完璧にできなければ子どもはほめられることはありません。それどころか、「何度言わせるの」、「早くしなさい」、「そこじゃないでしょ」など叱ることの方が多くなってしまいます。

では、25%ルールではどう変わるのでしょ。う。「(すぐではなかったけど)片付け始めたね」、「(1個だけでも)片付けたね」、「(途中でやめちゃったけど)途中まではできたね」、「(場所は違うけど)片付けているね」などいくらでもほめるタイミングはあります。(カッコ内は心の声)現場の先生たちからは、実践してみると一つの活動でもたくさんの態度や行動が見えてきて、ほめる材料が増えたという報告もありました。園でも、運動会の練習に参加したくないという子がいた時、職員のだれかがその子に、「おっ、〇〇ちゃん、(練習に使う)□□持ってるやん。すごい!」と声を掛けています。

25%ルールは、減点方式ではなく加点方式ではないでしょうか。子どもが幼いうちは、できないことを指摘するのではなく、大人ができて当たり前と思うことでも、子どもが今がんばろうとしていることを、些細なことからも認め、ほめてあげることが大事なのではないかと思います。

×の部分ではなく、○の部分に意識を向ける。簡単なようで意外にむずかしいのですが、そこは、担任を始めとした園のチームが実践している25%ルールの効果を参考にされ、ご家庭でも試してみてください。よほどのことがない限りは、少しくらいは目をつぶる、大目に見る、そしてできていることをほめる。その方が子どもも大人もお互い楽になりますね。(園長 寺本 明生)